

戌亥天中殺の人間関係

戌亥天中殺は、六つの天中殺の星のうち、外側から見て一番解りにくい存在と言って良いと思います。大変にデリケートな神経を持っていながら、大らかに見えるため、甘く見て近づいて来る人が少なくありませんが、ひょっとした拍子に、その激しい内側が現われてしまうことがあります。そうした激しい内側に触れた人は、見かけとはだいぶ違うことに驚いてしまうことがよくあるのです。

この、見かけとはずいぶん違う内面を持っている戌亥天中殺の(宿命の)本質は「無から有へ」というエネルギーの働き、そして「孤独」とか「静けさ」といったものです。(「無から有」というのは、全くゼロ=無のところから、何か自分のものをつくりだしていく力です。学者ならなにか新しいものを発明・発見した、創りあげた……というような人が多いのです。単に、アイデアが浮かぶといった程度ではなく、もっと大きな働きをしようと思っています。)

次に「孤独」ということですが、親・きょうだいがいないという孤独ではなく、応援がない人生を歩く、といった意味での孤独です。誰かに頼ろうとしたり、力を借りようとする、それだけ、持って生れたエネルギーは発揮されず、不満の多い人生になります。

「静けさ」ですが、この戌亥天中殺は、仕事の間はどんなに忙しく、せわしくても平気です。それに充分対応できるパワーもスケールも持っています。しかし、いったん、それに区切りがついたら、静かなシーンとした自分だけの時間がないとやっていけないのです。また、そういう時間をもつことが、この天中殺の運を伸ばしていくことになるのです。六中観にあります『忙中有閑(忙中閑あり)』をお忘れなく。)

また、戌亥天中殺は自分一代で新しい世界、財産を築いていく運命をもっているのです。(その意味では「子丑天中殺」の初代運とも似ていますが、本質は全く違います。)

この中殺は、六つの天中殺の星のうちでも一番心の支えが少なく、それだけに心の修練を積む必要があり、それに集中した人が心の高い次元を会得して宗教家とか思想家になっていきます。これらの人に戌亥天中殺生れが少なくありません。一方では、心の修練にまるで関係なく、怠け心のままに流されてしまう人もいます。その差が非常に大きいのが、この中殺の特徴です。

戌亥天中殺はどんな分野においても、自分独自の独特な世界を開く力を持っていると言っていいと思います。その意味で、ある種のカリスマ性を備えた人が少なくありません。

■同じ戌亥天中殺の人との人間関係

戌亥天中殺

戌亥天中殺にとって、同じ戌亥天中殺と云うのは黙っていても気心の知れる、心の休まる相手になります。

一般的に云って同じ天中殺同士というものは、惹かれ合う要素も強く、心が楽な相手なのです。同質な波長をもっていますので、たがいに感應しやすいからでもありましょう。

しかし、同じ天中殺同士といっても、戌亥天中殺同士の場合は、他の天中殺同士、たとえば申酉天中殺同士とか午未天中殺同士のように、非常に親密な関係はつきりません。

もともと、一匹狼的で、孤独の殻に閉じこもりやすい「中央」欠落の戌亥天中殺にとって、その二人が寄り添うのですから、なんとなく親しいけれど、よそよそしい。だからといって、決して冷たい訳ではないけれど、べったりもしない。……という淡々とした間柄をつくります。(これは、別紙資料を御覧になるとお分りのように、「中央」欠落の戌亥天中殺は中央の位置において垂直に天上への運気の場所に上昇となるために、自然にそのような関係になるのです。)

それだけに、どんなに親しくても、あまり相手の心や生活の中へ入り込もうとはしないのです。

言うべきことも、相談ごとでも、ある程度までで止めてしまう……ようなところがあるのです。(たとえば、同じ会社の上司と部下という関係でも、戌亥天中殺同士なら、たがいの私生活には入り込まず、仕事の面だけで続いています。入り込みすぎないから、細く長く続く関係が出来上がる……と言ってもいいでしょう。)

■戌亥天中殺同士の人間関係は、……

①一般的に考えられる人間関係

戌亥天中殺同士というのは、細く長く続く友人としてなら最高の相性になります。

戌亥天中殺には、社交性もあるけど、孤独な面も強い傾向があります。

それが自分の孤独を大切にするとところから、相手の中へも入り込まない……という要素にもなる訳で、女性同士の友人でも、他の天中殺のように、相手の私生活にまでべったりと関わりをもたない……というのが戌亥天中殺同士の特徴です。

何年仲良くつき合いながら、相手の家族の顔さへも知らない……ということが、この中殺同士には良くあることです。

ところで、この中殺同士が現実の世界でコンビを組みますと、ものごとの異常な発展のスピードを生むことになります。

そのために、事態の展開が速すぎて、まとまりがつきにくくなるくらい出てきます。

たとえば、戌亥天中殺の二人が会社をはじめるとしましょう。そしますと、仕事の展開の方がグングン進み過ぎて、人手が追いつかない、資金が間に合わない…と言ったような問題が出てきやすくなります。だいたいが精神性の強い戌亥天中殺同士が集まるのですから、現実を求めるより、精神的なつながりを大切にす友人関係などが一番良い関係と言っていいでしょう。

②仕事関係の相手として考えられる人間関係

戌亥天中殺同士ですと、どんなに親しくても、あまり相手の心や生活の中へ入り込もうとしません。

言うべきことも、相談事でも、ある程度までで止めてしまう……

たとえば、同じ会社の会社の上司と部下という関係でも、戌亥天中殺同士なら、互いの私生活には入り込まず、仕事の面だけでずうっと続いていきます。

入り込み過ぎないから、細く長く続く関係が出来上がると言っていいでしょう。

こういう力の働きをする相性ですから、会社の上司、同僚、部下、にはあまり有り難い関係とはいえません。むしろ、得意先とか、先輩、友人、あるいはそれこそ遠い親戚といったところにいてくれると、有難い相手です。

③非打算社会(友人とか学問・趣味の子弟関係)として考えられる人間関係

だいたいが、精神性の強い戌亥天中殺同士が集まるのですから、現実を求めるより、精神的なつながりを大切にす友人関係などが一番よい関係と言っていいでしょう。

先輩との間でも、上下というより、友情に近い感情が長く続いていきます。利害関係がなく、心を開いて人生の事をいろいろ語り合う……という関係ですから、戌亥天中殺同士でも同性同士の結びつきの方が理想的な形になります。戌亥天中殺の人が「生涯の友」などと言うときには、わりと同じ戌亥天中殺同士が多いのはその為です。

お稽古事や勉強の師、社会奉仕の仲間といった精神的つながりを求める関係では、とくによい関係になります。

④家族(親子・きょうだい)として考えられる人間関係

戌亥天中殺同士の組み合わせは、気質的には当然良く合うので、親子・きょうだい間では問題が少ない、よい関係が保てる関係です。

⑤夫婦若しくは恋人の場合として考えられる人間関係

戌亥天中殺同士が結婚した場合は、気質的には当然良く合うのですが、お互いの孤独性が重なるわけですから、生活は二人だけか、できるかぎり少人数ならうまくいくカップルです。(戌亥天中殺同士が結婚した場合、夫婦というよりも、“よき友人”といった色合いの強い関係をつくるカップルが少なくありません。)

恋人同士なら、友人と同様、信頼感の強いカップルになります。